

いぼがわ

せせらぎたより



新宮町 屏風岩

Contents

第4回 揖保川流域委員会の開催

- ◆ 前回に引き続き揖保川と流域の現状説明が行われました
- ◆ 今後の審議の進め方、住民意見の反映について話し合われました

表紙写真
募集中

このニュースレターは、「揖保川流域委員会」の審議内容について流域の皆さんに発信するために、委員会が編集・発行しています。
揖保川流域委員会の内容は、ホームページでもご覧いただけます。

揖保川流域委員会 ホームページアドレス <http://www.iboriver.jp>

今回の表紙写真は姫路市にお住まいの遠藤忠雄さんから寄せられた写真です。

審議内容の紹介

- 日時:平成14年10月7日(月) 13:30~16:30
- 場所:ホテルサンガーデン姫路 光琳の間



主な議事内容

- 1 揖保川と流域の現状認識
- 2 今後の審議の進め方について
- 3 住民意見の反映と広報について
- 4 傍聴者からの発言

委員会の概要

1 揖保川と流域の現状認識

第3回委員会に引き続き、「揖保川と流域の現状」について情報の共有が行われました。今回は次の内容について、河川管理者、委員、庶務より説明が行われました。

- 1 揖保川の利用の歴史と現状（このうち揖保川の水と産業について）
- 2 揖保川の自然環境
- 3 揖保川と流域社会
- 4 揖保川の水量及び水収支
- 5 緑のダムについて

以上の説明に引き続き、委員による質疑応答が行われました。主な発言は次のとおりです。

委員からの主な発言

●山間部だけではなく、人間が住んでいる町の中も含め、降った雨をすぐ川に集めて流してしまう構造に対し、水の循環をもっと緩やかにする工夫の一つとして山の「緑のダム」ということも必要だと考えている。町の中も、今、盛んに雨水をためておいて使おうという有効利用が言われている。また、水田がどんどんなくなり水田で水を一時蓄えるという能力も低下しているということのようなこともあり、降った雨水をゆっくり循環させることが必要である。

●「揖保川の水量及び水収支」について、下水道の整備により水の量が相当減っているのか、微々たるものなのか、教えていただきたい。

→(河川管理者による回答)下水道の整備率が100%になったら最大 $0.3\sim 0.4\text{m}^3/\text{s}$ 程度の水が失われる。低水流量は最近で約 $5\text{m}^3/\text{s}$ 、渇水流量だと $1\sim 2\text{m}^3/\text{s}$ というときもあり、そのときと比較すればあまり小さくはない。

●「揖保川の植生及び水域の特性図」について、水量が減った場合にどのように植生などが変化するのか。
→(委員による回答)水量が減る、あるいは大洪水で植生がはがれることが少なくなると、植生の遷移が進行する。普通ならカワラヨモギ群落があるはずのところ、ノイバラやクコなど灌木に覆われたり、オギ原が徐々に減って別の植生に置き換わっているといったこともある。これは、ふだん見る1年間のうちに起こる変化というより、

長い目を見たときに、大きな洪水がなくなったり、あるいは富栄養化の問題などが効いてきているのではないかと思う。

●緑のダムの問題で、保水機能と流出抑制機能に分けて説明されたが、後者の方は、洪水を問題にしているのであれば緑のダムはほとんど関係ない。崩壊無効雨量というのがそれぞれの河川にあって、継続雨量がある量に達すると地質が関わって崩壊を起こすので、それを多少森林の植生で抑えることはあるが、緑のダムの議論とは別問題である。

●昭和45年ぐらいからの降水量の資料を示していただいたが、全国的に昭和50年ぐらいから雨が減ったということがよく言われているので、もう少しデータがあれば、さかのぼっていただいた方が、揖保川の水が減っているということがわかりやすい。

●生態系、魚類、植生について、揖保川ではこうであるということはよく理解できたが、それが、ほかの同じような河川と比べて環境的にどういう状況にあるのか、比較があればよい。

●アンケートについては、年齢層が大きく関係し、小さい子どもを抱えている若い世代と、成人されたお子さんを抱えている世代とでは川に対する考え方、環境の重要性などの考え方が異なる。そのあたりのデータの属性の分類をしてはどうか。

●緑のダムについては、ダムという言葉がキーワードに入っているので、あたかも構造物であるかのような、何らか

の機能を発揮してくれるようなイメージを持たれると非常に危険だと思う。河道だけではなく、市街地の透水性舗装や遊水池など流域を考えた総合治水対策を根幹にしなければいけない。「総合治水対策」の方が、「緑のダム」というスローガンが一人歩きするおそれが少なくなるのではないか。

●総合計画に関連し、河川空間の整備について、それぞれの市町が、揖保川について具体的に、河川整備の考え方、基本計画的なものを持っているのであれば、提示してほしい。各市町で地域の水循環ということを政策として考えているのかということも、あれば提示してほしい。

●最近の川にはやたらに草木が生えていて、幼いときに遊んだ礫原があった川とは違ってきている。揖保川の目指すべき環境、風景、揖保川の原風景はどうかを、議論する必要がある。

●下水道の整備状況は現在約70%だが、これが100%できた場合、今年のように渇水が発生すると、龍野から下流域の川の流れはどうなるのか。
→(河川管理者による回答)近年の渇水流量は1～2m³/sぐらいで推移しており、大渇水ときは小さな影響ではないだろうと推測される。

●今年の渇水で、満潮時には浜田井堰まで塩水が上がっており、井戸水までが塩水になっている。やはり揖保川においても塩止めが必要なのではないか。

② 今後の審議の進め方について

今後の審議の進め方について、審議の手順とまとめの方法について討議が行われました。その結果、次のことが決まりました。

- ・当面の目標として、委員会は、河川整備計画原案への提言を、平成15年2月末を目途にとりまとめる。
- ・提言とりまとめに向けての審議は、委員会に加え、分科会(全委員がいずれかの分科会に参加)を設置して行うこととし、分科会の組織やメンバー等について次回の委員会で検討する。

3 住民意見の反映と広報について

委員会における住民意見の反映について、実施のあり方、時期等に関する討議が行われました。住民意見の反映については、次回の委員会で引き続き検討することになりました。また、委員会広報の考え方とニュースレターの見直しについても、次回の委員会で検討することになりました。

2 3 における主な発言は次のとおりです。

委員からの主な発言

- 淀川水系流域委員会のシンポジウム資料に、利水、河川利用、河川環境、治水・防災、住民参加という大きな柱が出ている。揖保川流域委員会でもこのような観点に立って柱立てを考えていけば、目に見える具体的な提案ができるかもしれない。
- 一つの方向として、歴史的な遺産をどのように考えていくかということについての話し合いも、提案の中に盛り込めるように進めていただきたい。
- 流域の市町が、現在揖保川とどのように関わりがあるのか、それぞれの市町が、今後揖保川をどう考え、どのような展望を持って関わっていこうと考えているのかということ視野に入れておかなければいけない。
- 河川管理者としては、各市町との協議、意見交換はされているのか。
→(河川管理者による回答)河川の整備について、各自治体からの要望等は常にお伺いしているが、それぞれの首長さんが思われている分野があり、すべての分野で総合的に意見をいただいているということではないと思う。
- 分科会については、揖保川の将来を考えるのに必要なものを、次回の委員会あたりで全員で検討してはどうか。
→(委員長による回答)次回の委員会で分科会の案を提

案できるようにしたい。委員の方々には分科会に参加していただくことと、流域を整備するにあたりそれぞれの立場からの意見を考えてきていただくことを了解していただきたい。

- 「揖保川と流域への想い」「揖保川の川づくりに向けた課題」の検討にあたっては、住民の方の具体的な意見も反映できればなおよい。
- 我々は情報を共有化していろいろな整備を進めていかなければならないということを委員会でも言っているが、流域の人たちが本当にその情報の共有化に参加しているかどうかを確認するのは、やはり一つの課題だと思う。例えばフォーラムやシンポジウムなどの手法をとれば、地域住民の意見はそこで反映されると思う。手順としては、河川整備計画原案に対する委員会からの提言を出す前に住民意見を把握し、要望書にまとめていくというやり方の方がわかりやすいのではないか。
- シンポジウムは3～4カ月の準備期間がある。分科会をつくり、分科会に属している委員が出席し、フォーラムを開催することも考えられる。
- 例えば、いろいろな地域活動団体の方々の中で、意見を言いたいという方に来ていただいて、想いを話していただき、各委員がそれぞれ自分の分野のものを引き受けるというかたちがある。時間が許せば、委員会の中で地域団体の方に想いを話してもらおうというのはどうか。

4 傍聴者からの発言

3名の傍聴者から次のような発言がありました。

- 揖保川を考えるのに、森と川と海ということは切り離しては考えられないと思っている。森林の役割を正しく認識してもらい、総合的な森ということを考えて、これからの揖保川流域の委員会の中で含めて考えていただきたい。
- 委員の方々是非常にお忙しい方ばかりなので、資料は、事前に委員の手元に回し、すぐに質疑に入られた方が時間的にずっと有効なのではないかと感じた。そういう方法も考えてもらいたい。
- 川とごみという問題は国民的な課題だと思う。揖保川流域で、こうしてこのような議論をしているのだから、川掃除の日を決めて実行してもいいのではないかと思う。

揖保川と流域の現状説明資料より

川の景観の変遷

朝日橋(現在の旭橋) 大正期



出典:「ふるさとの思い出写真集-龍野」国書刊行会刊

◆朝日橋の西(右岸側)には、大正時代「揖玉座」という芝居小屋がありました。



出典:「龍野・揖保・宍粟の100年」郷土出版社刊

◆朝日橋の東(左岸側)は、松並木の向こうに醤油蔵が建ち並んでいました。写真の手前は船着場でした。

川と人々の生活の関わりの変遷

川での水泳 昭和30年代



出典:「龍野・揖保・宍粟の100年」郷土出版社刊

◆龍野市中心部にある朝日橋から飛び込みをする子供たちの様子です。

鮎狩り 昭和30年代



出典:龍野市勢要覧

◆鮎狩りは、夏の間龍野市周辺の揖保川で行われていました。

筏流し 昭和20年代



出典:「龍野・揖保・宍粟の100年」郷土出版社刊

◆一宮町内の揖保川で筏の上にいる少年たちの写真。一宮町から下流へと筏流しが行われていました。

やな漁 大正期



出典:「龍野・揖保・宍粟の100年」郷土出版社刊

◆新宮町では、揖保川本川に竹で堰をつくり、大規模なやな漁が行われていました。

農業用水利用の歴史

■ 揖保川流域では、農業用水として揖保川の水が利用されています。稲作の発達とともに農業用水利用も変化していますが、その歴史について古い絵図などを用いて説明が行われました。

1595年 岩見井・半田井水論絵図



出典「描かれた龍野」龍野市立歴史文化資料館刊

現在



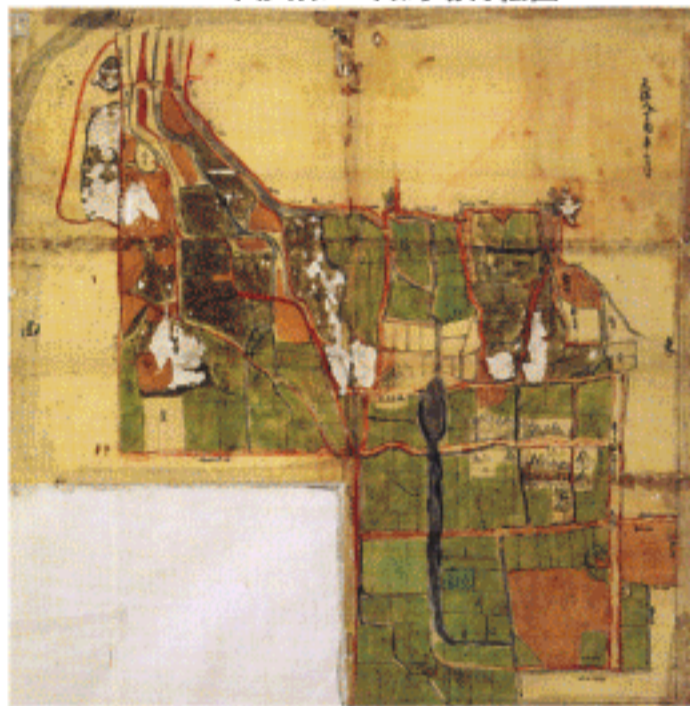
取水堰の建設

◆ 左の絵図は、16世紀後半に描かれたものです。林田川との合流点付近から新宮町のあたりまでが描かれていますが、揖保川本川、栗栖川、林田川に22カ所の取水堰が設置されているのがわかります。右が現在の取水堰の位置を示した図ですが、現在よりも多くの堰が設置されていたと推定されます。

水路の整備

◆ 下の図は、太子町馬場地区を描いた絵図と航空写真をもとに、江戸時代後期の1837年、明治5年、昭和32年の水路網の状況を比較したものです。江戸時代には既に現在とほぼ同じルートで水路が整備されていたと推定されます。(右の写真は、航空写真の水田の区画より、水路の位置を想定し、着色したものです。)

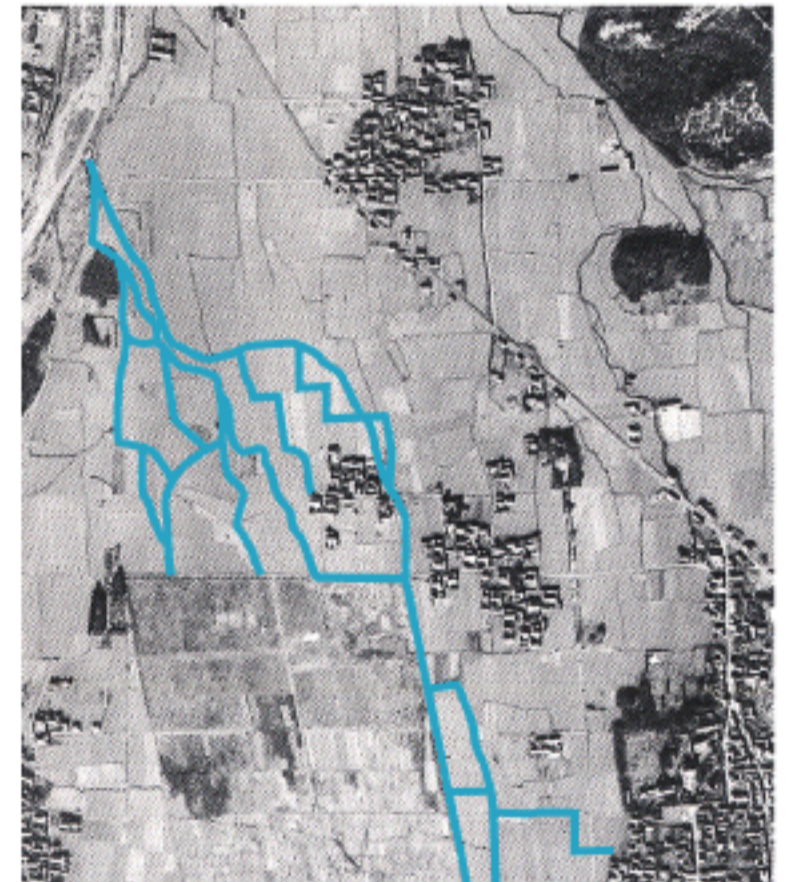
1837年(天保8年)馬場村絵図



1872年(明治5年)馬場村絵図



1957年(昭和32年)



出典：「太子町を描く」太子町立歴史資料館刊

井堰建設の様子



昭和初期 浦上井堰



昭和32年 片吹井堰



昭和40年代 三津井堰

◆ 上の写真は、井堰建設の様子を写したものです。左は、昭和初期に龍野市中心部に架かっていた朝日橋(現在の旭橋)下流に当時あった浦上井堰の写真です。中央は林田川にある片吹井堰、右は山崎町にある三津井堰の写真です。当時は、毎年灌漑期ごとにこのような作業が行われていました。

出典：「龍野・揖保・六粟の100年」郷土出版社刊

揖保川流域委員会とは

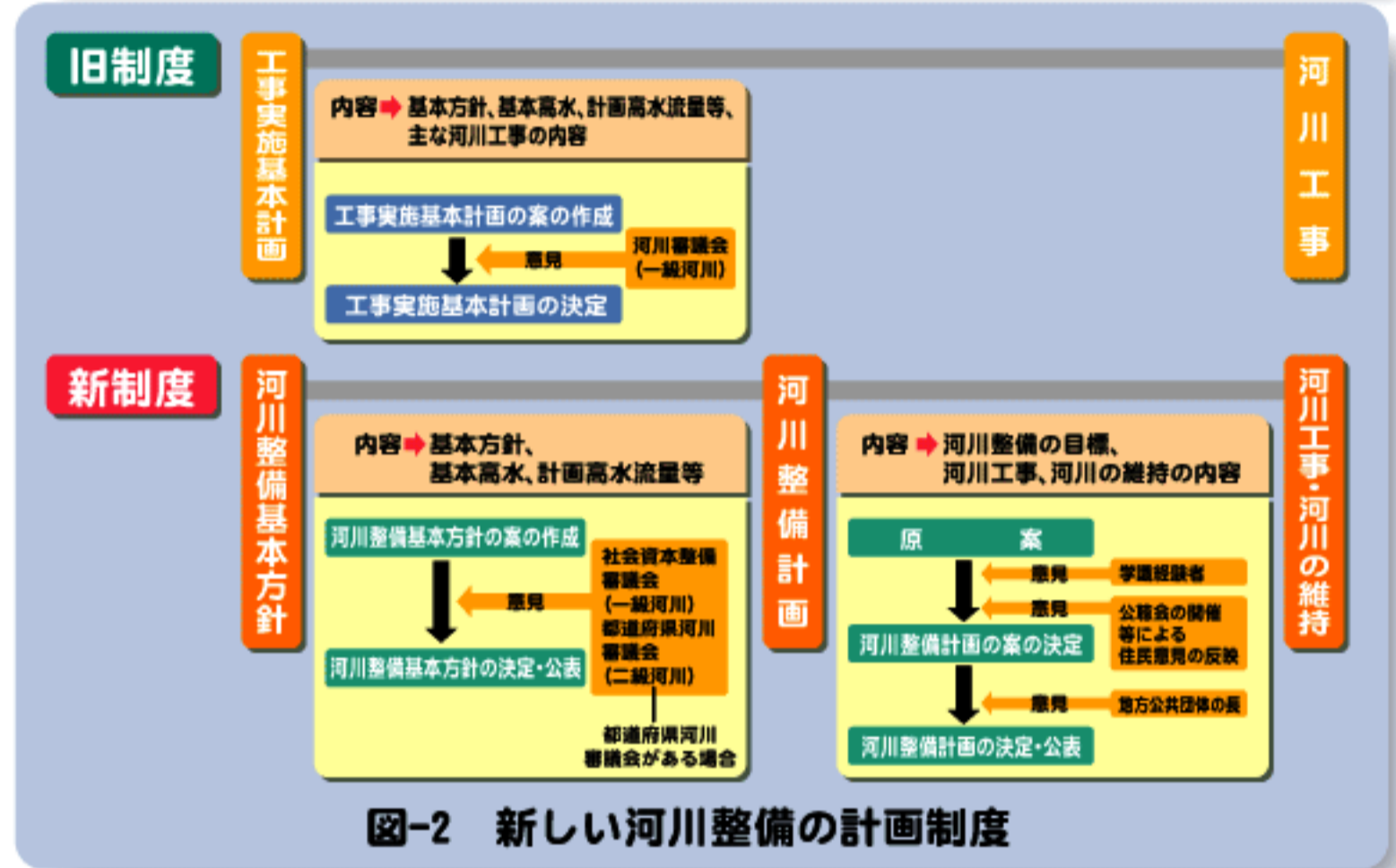
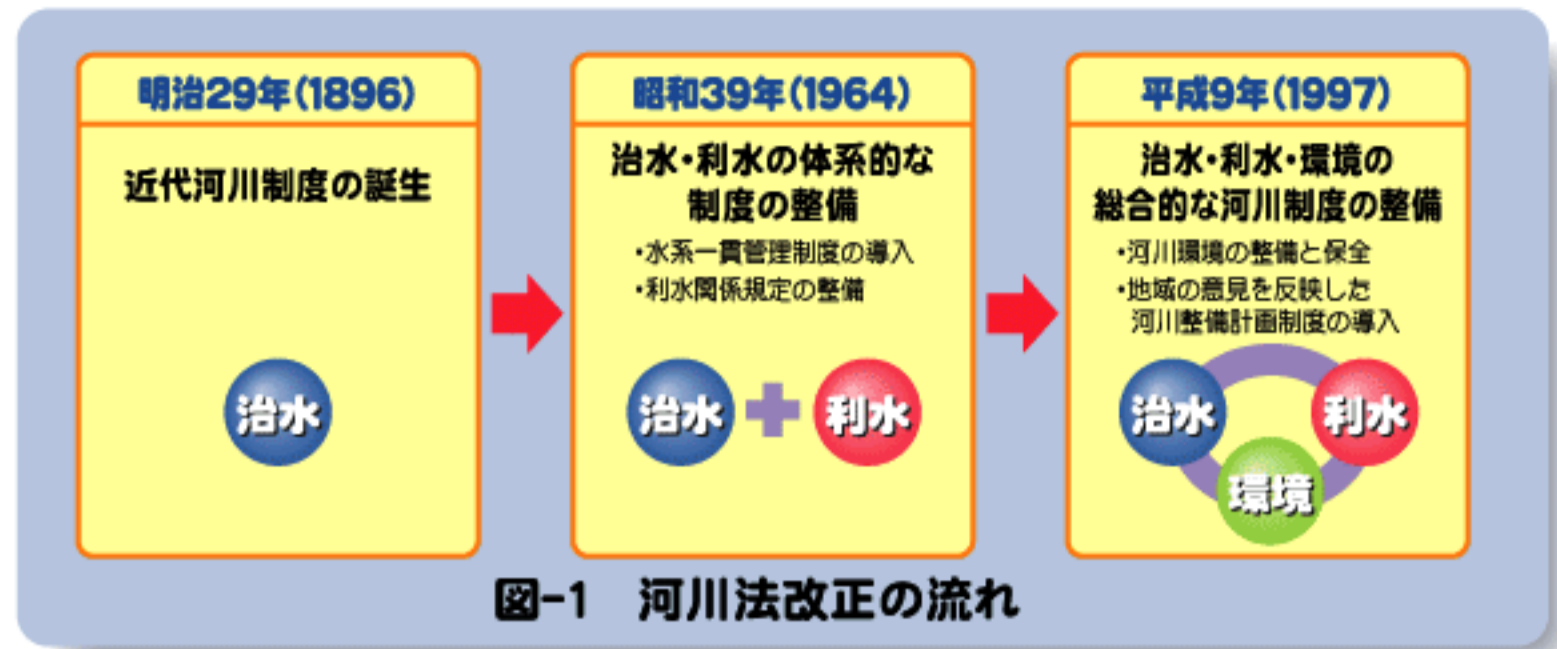
平成9年の河川法改正に伴い、これまでの「治水」「利水」に加えて「河川環境の整備と保全」が法の目的に追加されました(図-1参照)。

また、これまでの「工事实施基本計画」に代わって、長期的な河川整備の基本となるべき方針を示す「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の内容を示す「河川整備計画」が策定されることになり、後者については、学識経験者、地域住民等の意見を反映する手続きが導入されました(図-2参照)。

揖保川流域委員会は、「揖保川河川整備計画案(直轄管理区間)」の策定にあたり、

- 1 河川整備計画の原案について意見を述べる
- 2 関係住民意見の反映のあり方について意見を述べる

ことを目的に設置しているものです。



揖保川流域委員会委員名簿

氏名	所属	分野
あさみ かよ 浅見 佳世	姫路工業大学客員助教授	植物生態
いえなが よしふみ 家永 善文	前姫路科学館館長	環境全般
いげた たける 井下田 猛	姫路獨協大学法学部教授	環境政策
くしだ たいぞう 櫛田 泰三	揖保川漁業協同組合組合長	漁業
しょう かずゆき 庄 一幸	元中学校校長	上流域の地域特性
しんどう じゅんぞう 進藤 淳三	元社団法人龍野青年会議所理事長	グラウンドワーク 地域経済
たなかまる はるや 田中丸治哉	神戸大学大学院自然科学研究科助教授	農業水利
たはら なおき 田原 直樹	姫路工業大学教授	都市計画
とちもと たけよし 栃本 武良	姫路市立水族館館長兼 島根県立宍道湖自然館館長	水生動物 多自然型河川工事
なかのう かずや 中農 一也	学校法人誠和学院 姫路建設専門学校校長	都市環境デザイン まちづくり

氏名	所属	分野
なかもと たかみち 中元 孝迪	神戸新聞社常任監査役	マスコミ
はだ しげき 波田 重熙	神戸大学大学院教育研究センター教授	構造地質学
委員 ふじた まさのり 藤田 正憲	大阪大学大学院工学研究科教授 大阪大学保全科学研究センター長	水質管理工学 環境生物学
まさだ とみお 正田 富夫	うすくち龍野醤油資料館館長	地場産業
ますだ きよし 増田 喜義	網干史談会会長	歴史・文化財
まるやま のぶゆき 丸山 信行	元姫路市水道局浄水課長兼水質検査室長	上水道
みちあく こうじ 道奥 康治	神戸大学工学部教授	河川工学 環境水理学
もりもと いちじ 森本 一二	元中学校校長	歴史・文化財
よしだ ひさお 吉田 久夫	播州皮革工業協同組合理事長	地場産業
わさき ひろし 和崎 宏	はりまインターネット研究会	地域情報化

これまでに開催された会議

● 揖保川流域委員会 設立準備会議

第1回設立準備会議	平成13年10月15日(月)
第2回設立準備会議	平成13年12月11日(火)

● 揖保川流域委員会

第1回委員会	平成14年3月4日(月)
第2回委員会	平成14年5月27日(月)
第3回委員会	平成14年8月2日(金)
第4回委員会	平成14年10月7日(月)

資料の入手方法

委員会資料の閲覧・郵送を希望される方は、電話・FAX・Eメールで庶務までご連絡下さい(庶務の連絡先は裏面をご参照下さい)。
※委員会資料は、ホームページからもダウンロードできます。

「表紙写真」の募集

揖保川流域委員会ニュースレターの表紙を飾る写真を、一般の方より募集します。
四季ありあけの揖保川の風景や行事など、揖保川流域内で撮影された写真を応募して下さい。
なお、ニュースレターは委員会の開催ごとに発行する予定で、表紙として採用させていただく
写真の選定は、委員会において行います。
また、応募いただいた写真の一部を揖保川流域委員会ホームページでも紹介させていただく
予定です。

【応募方法】

プリントした写真と、撮影場所・撮影時期等の説明文を同封し、住所・氏名・電話番号をご記入の上、
下記の庶務連絡先まで郵送で応募して下さい。応募写真は、未発表の作品に限らせていただきます。

※なお、使用させていただく写真の著作権、著作権は委員会に帰属するものとし、応募作品は返却しませんので、
あらかじめご了承ください。



揖保川流域委員会ニュースレター No. 4

【編集・発行】 揖保川流域委員会

【連絡先】 揖保川流域委員会 庶務

株式会社ニュージェック 担当：高橋、岡田

〒542-0082 大阪府中央区島之内1-20-19

TEL : 06-6245-9577

FAX : 06-6243-2776

E-mail : office@osaka.newjec.co.jp

揖保川流域委員会 ホームページアドレス <http://www.iboriver.jp>